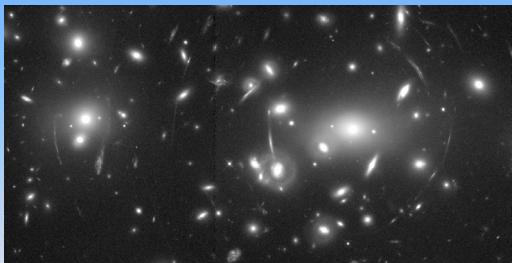


重力レンズ効果

慶應義塾大学 日吉物理学教室 談話会



(<http://hubblesite.org/newscenter/archive/1995/14/image/a>)

吉田 宏

yoshidah@fmu.ac.jp

福島県立医科大学 物理学講座

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

1

1. 光が曲がる？

Newton (1701) 光は直進する！

Cavendish (1783), Laplace (1796), Soldner (1801)

光は重力で曲がりうる

Newtonの重力理論から

$$\Delta\varphi_N = \frac{2GM_\odot}{c^2 R_\odot} = 0.85''$$

当時の観測精度では測定不可

(1"=1秒は1cmのものを2km離れてみたときの角度)

2003/10/15

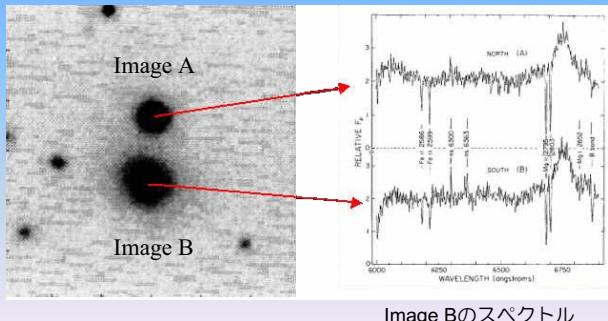
日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

3

双子のケーサー 発見！

Walsh, Carswell, Weymann(1979)

Q0956+561 A,B

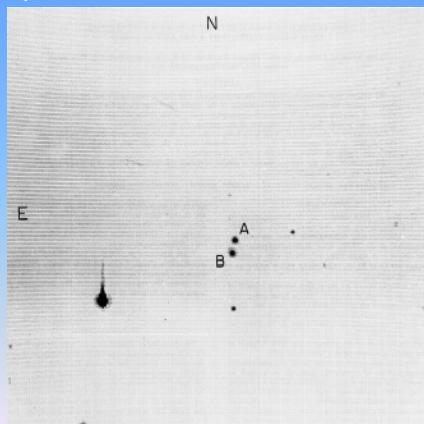


2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

5

Q0957+561 2/2



2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

7

目次

1. 序論 光が曲がる？
2. 重力レンズ効果って何だろう？
3. 主な観測例と応用
4. 最近の研究から

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

2

相対論(Einstein)

Schwarzschild解

太陽の近くを通る光の道筋

光が重力によって曲げられる角度

$$\Delta\varphi_R = \frac{4GM_\odot}{c^2 R_\odot} = 1.75''$$
$$= 2\Delta\varphi_N$$

Eddington (1919)

日食のときに太陽の近くに見える星を観測

$$\Delta\varphi_{\text{obs}} \approx 1.60'' \pm 0.31''$$

相対論の正しさを立証!!

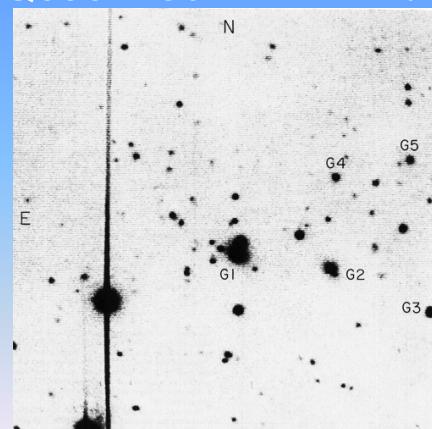
2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

4

Q0957+561

1/2



2003/10/15

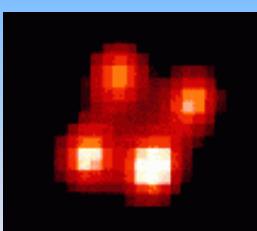
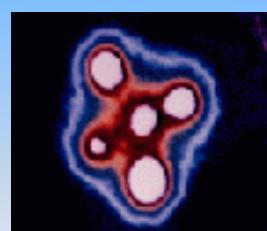
日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

6

Einstein cross (Clover leaf)

2237+0305

H1413+117

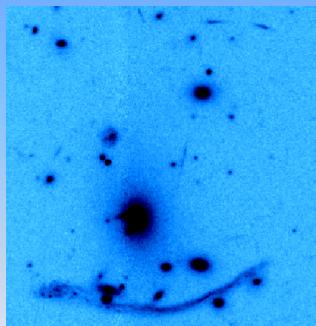


2003/10/15

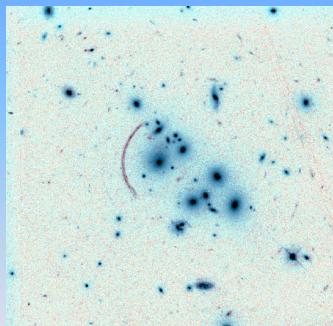
日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

8

Giant arc



A370



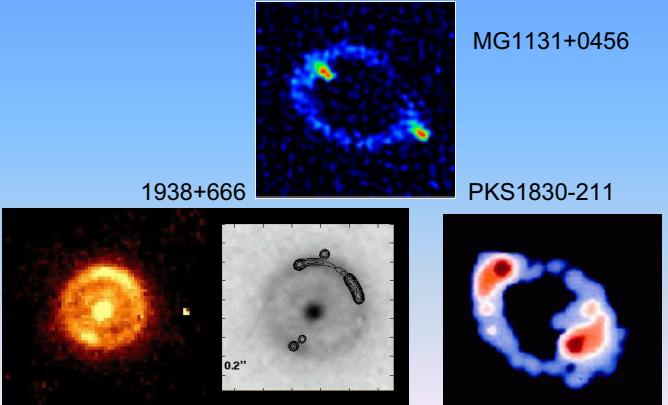
CL2244-02

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

9

Einstein ring



1938+666

MG1131+0456

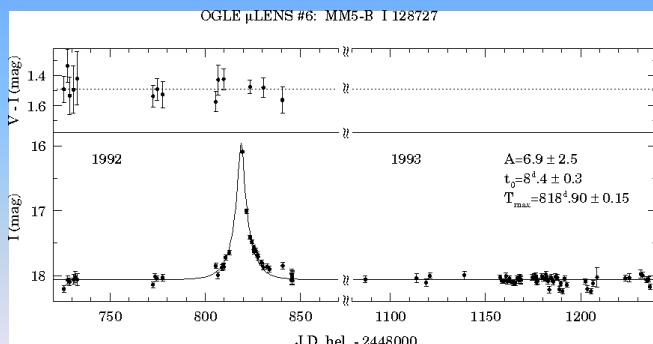
PKS1830-211

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

10

Microlensing

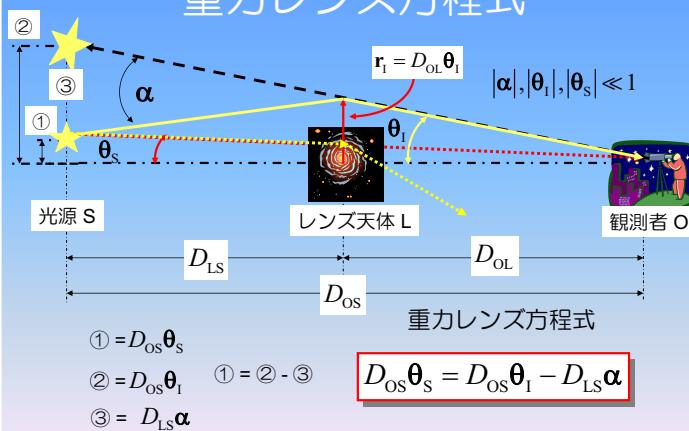


2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

11

重力レンズ方程式



2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

13

$\theta_{I\pm}$ の意味

像「+」



$$\theta_{I\pm} = \frac{1}{2} \left(\theta_S \pm \sqrt{\theta_S^2 + 4\theta_E^2} \right)$$

像「-」

像の多重化

1つの光源に対して複数の像が見られる

各像の性質はどうも同じ

赤方偏移, スペクトル

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

15

2. 重力レンズ効果って？

- 重力レンズ方程式
- 像の多重化
- 像の明るさ
- 像のゆがみ
- 到達時間の遅れ

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

12

簡単な例

レンズ天体が質点のとき レンズ天体がコンパクトなもの(星)

$$\text{曲がる角度 } \alpha = \frac{4GM}{c^2 r_I} = \frac{4GM}{c^2 D_{OL} \theta_I}$$

重力レンズ方程式

$$\theta_S = \theta_I - \frac{4GMD_{LS}}{c^2 D_{OL} D_{OS}} \frac{1}{\theta_I} \rightarrow \theta_S = \theta_I - \frac{\theta_E^2}{\theta_I}$$

$$\theta_E \equiv \sqrt{\frac{4GMD_{LS}}{c^2 D_{OL} D_{OS}}} \quad \theta_I^2 - \theta_S \theta_I - \theta_E^2 = 0$$

$$\text{アインシュタインリングの半径 } \theta_{I\pm} = \frac{1}{2} \left(\theta_S \pm \sqrt{\theta_S^2 + 4\theta_E^2} \right)$$

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

14

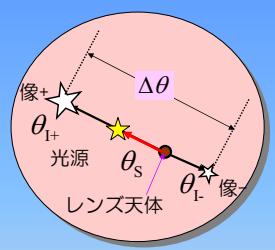
2つの像の分離角

$$\Delta\theta = \theta_+ - \theta_- = \sqrt{\theta_S^2 + 4\theta_E^2} \geq 2\theta_E = 2\sqrt{\frac{4GM D_{LS}}{c^2 D_{OS} D_{OL}}}$$

等号は $\theta_S = 0$ のとき

θ_-

像の分離角から、レンズ天体の質量を見積もれる



2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

16

典型的な分離角の大きさ

$$\Delta\theta \sim 2\sqrt{\frac{4GMD_{LS}}{c^2 D_{OS} D_{OL}}}$$

光源が我々の銀河中心くらいにある場合
レンズ天体が恒星程度の質量

$$D_{OS} \sim 8\text{kpc} \approx 2.4 \times 10^{17}\text{km} \quad \Delta\theta \sim 0.002''$$

光源が我々から32億光年くらいにある場合
レンズ天体が銀河程度(10^{45}g)の質量

$$D_{OS} \sim 32\text{億光年} \approx 3.1 \times 10^{22}\text{km} \quad \Delta\theta \sim 5.6''$$

2003/10/15

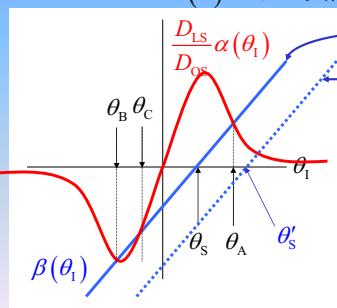
日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

17

質点でない球対称なレンズ

$$\text{曲げられる角度 } \alpha = \frac{4GM(r)}{c^2 r}$$

$M(r)$ レンズ天体の半径 r 内に含まれる質量



像の数は3個
像の数は1個

真の光源の位置によって
像の数が変わる

2003/10/15

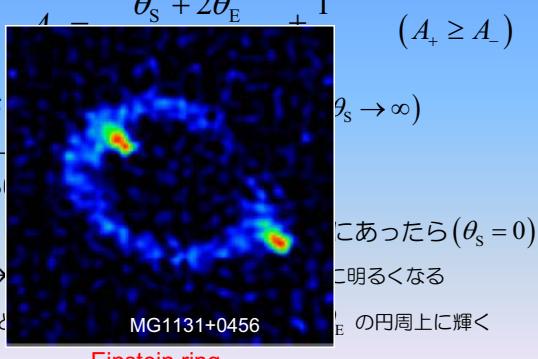
日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

19

質点レンズによる増光効果

$$A_+ = \frac{\theta_s^2 + 2\theta_e^2}{\theta_s^2} + 1 \quad (A_+ \geq A_-)$$

・ 真の光源が明るくなる
 A_+ と A_- の和が明るくなる
・ 真の光源と $\theta_s = 0$ のとき明るくなる
Einstein ring



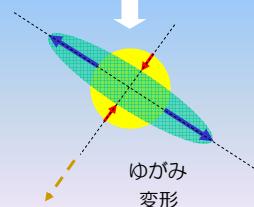
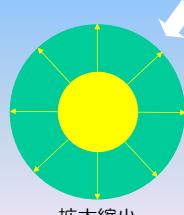
2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

21

増光行列

$$\mathbf{M}^{-1}(\theta_i) = \begin{pmatrix} 1-\kappa-\gamma_1 & -\gamma_2 \\ -\gamma_2 & 1-\kappa+\gamma_1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1-\kappa & 0 \\ 0 & 1-\kappa \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} \gamma_1 & \gamma_2 \\ \gamma_2 & -\gamma_1 \end{pmatrix}$$



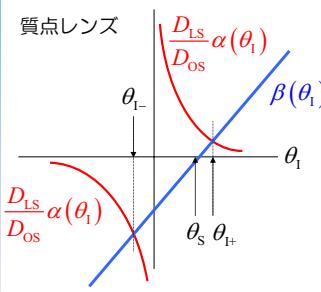
2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

23

グラフで見るレンズ方程式

$$\theta_s = \theta_i - \frac{\theta_e}{\theta_i} \rightarrow \frac{D_{LS}}{D_{OS}} \alpha(\theta_i) = \frac{\theta_e}{\theta_i}, \quad \beta(\theta_i) = \theta_i - \theta_s, \quad \frac{D_{LS}}{D_{OS}} \alpha = \beta$$



レンズ天体が質点の場合、像・真の光源・レンズ天体は一直線上に並ぶ

レンズ天体の質量分布が球対称などきの特徴

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

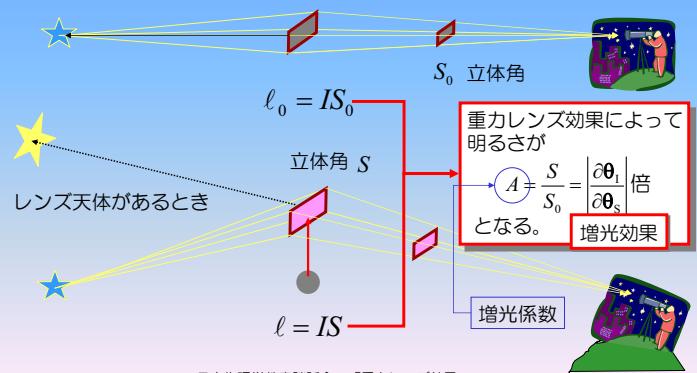
18

像の明るさ

重力レンズ効果に左右されない

光源の見かけの明るさ=光源の表面輝度 (I) × 光源の立体角 (S)

レンズ天体のないとき



2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

20

像のゆがみ-----増光行列-----

$$\theta_s = \theta_i - \frac{D_{LS}}{D_{OS}} \alpha(\theta_i)$$

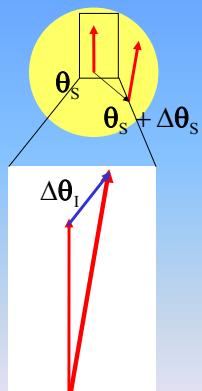
$$\theta_s + \Delta\theta_s = \theta_i + \Delta\theta_i - \frac{D_{LS}}{D_{OS}} \alpha(\theta_i + \Delta\theta_i)$$

$$\Delta\theta_s = \Delta\theta_i - \frac{D_{LS}}{D_{OS}} \frac{\partial \alpha(\theta_i)}{\partial \theta_i} \Delta\theta_i$$

$$\equiv [\mathbf{I} - \mathbf{U}(\theta_i)] \Delta\theta_i = \mathbf{M}^{-1}(\theta_i) \Delta\theta_i$$

$\mathbf{M}(\theta_i)$ 増光行列 (2行2列の行列)

$$\mathbf{M}^{-1}(\theta_i) = \begin{pmatrix} 1-\kappa-\gamma_1 & -\gamma_2 \\ -\gamma_2 & 1-\kappa+\gamma_1 \end{pmatrix}$$



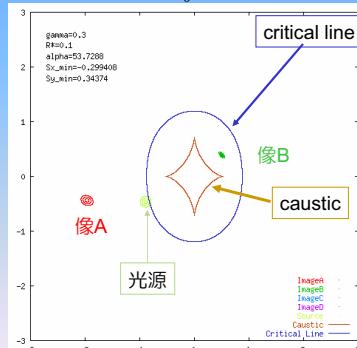
2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

22

critical lineとcaustic

$$A(\theta) = \frac{S}{S_0} = \det[\mathbf{M}(\theta)] = \frac{1}{(1-\kappa)^2 - (\gamma_1^2 + \gamma_2^2)}$$



critical line

$1/A = 0$ となる θ の線
像がこの線の上にあるときは像の明るさは非常に大きくなる

caustic

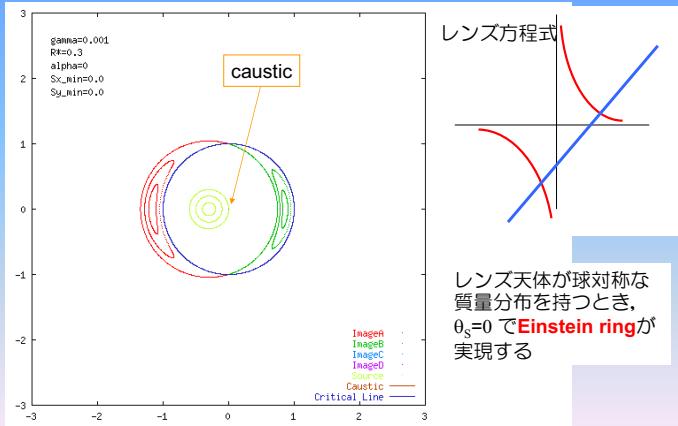
critical lineをレンズ方程式から θ_s に変換した線
光源がこの線の上にあるときは像の明るさは非常に大きくなる

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

24

球対称な質量分布

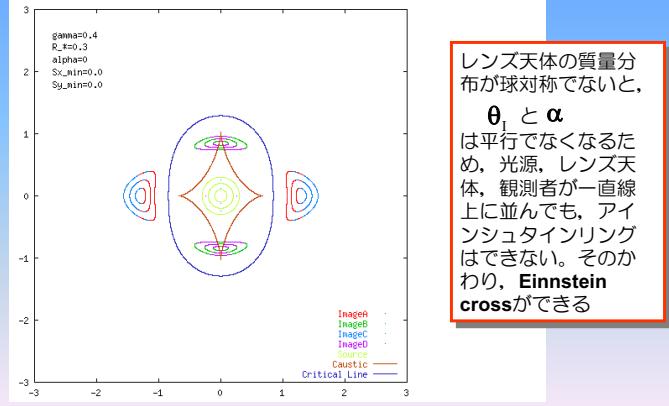


2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

25

球対称でない質量分布

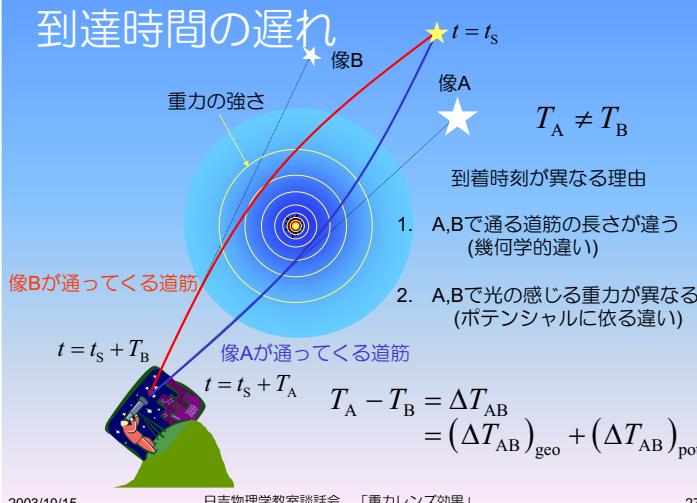


2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

26

到達時間の遅れ



2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

27

到着時刻の遅れ(time delay)

$$(\Delta T_{AB})_{geo} = (1+z_L) \frac{D_{OL} D_{OS}}{c D_{LS}} \left[\frac{1}{2} |\theta_A - \theta_S|^2 - \frac{1}{2} |\theta_B - \theta_S|^2 \right]$$

$$(\Delta T_{AB})_{pot} = -\frac{(1+z_L)}{c} \frac{D_{OL} D_{OS}}{D_{LS}} [\psi(\theta_A) - \psi(\theta_B)]$$

$$\frac{\partial}{\partial \theta_x} \psi(\theta) = \frac{D_{LS}}{D_{OS}} \alpha_x (D_{OL} \theta), \quad \frac{\partial}{\partial \theta_y} \psi(\theta) = \frac{D_{LS}}{D_{OS}} \alpha_y (D_{OL} \theta)$$

$$\Psi(\theta, \theta_S) = \frac{1}{2} |\theta - \theta_S|^2 - \psi(\theta, \theta_S)$$

$$(\Delta T_{AB}) = \frac{(1+z_L)}{c} \frac{D_{OL} D_{OS}}{D_{LS}} [\underbrace{\Psi(\theta_A, \theta_S) - \Psi(\theta_B, \theta_S)}_{\text{観測量}}]$$

宇宙論的な量に依存

レンズ天体のモデルに依存

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

28

3. 観測例と応用

- ・多重クエーサーから
- ・多重クエーサーの頻度
- ・マイクロレンズ効果

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

29

重力レンズ方程式からの制限

$$\theta_s = \theta_i - \frac{D_{LS}}{D_{OS}} \alpha (D_{OL} \theta_i)$$

α 光の曲がる角度
レンズ天体を特徴付けるパラメータ

全質量 M 、質量密度 ρ
形(球対称?、楕円型?...)
速度分散、回転速度

観測される像の位置 $\theta_A, \theta_B, \theta_C, \theta_D, \dots$

観測された複数の像の位置を再現するように、レンズ天体のパラメーターに対して制限を与えることができる。

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

31

3.1. 多重クエーサー

同一の光源が複数の像として観測される

多重クエーサーである為の条件

1. 複数のクエーサーの分離角は小さいのか?
2. 複数の赤方偏移 z が同じか?
3. スペクトルは同じか?
4. レンズ天体はあるか?
5. 明るさは同じように変化しているか?

http://vela.astro.ulg.ac.be/themes/extragal/gravlens/bibdat/engl/glc_homepage.html

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

30

増光行列からの制限

真の光源の形 \longrightarrow 像の形

真の光源の形と像の形の対応付ける変換

増光行列 $M(\theta)$

$$\Delta\theta_s \mapsto M(\theta_A) \Delta\theta_s = \Delta\theta_A$$

像Aの形

観測できない量

像A, Bの形は観測できるので、

像AからBへの変換行列も観測量

$M_B M_A^{-1}$ が観測データと一致するように、レンズ天体のパラメータに制限を与えることができる。

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

32

Time delayの観測データから

$$\text{観測量} (\Delta T_{AB}) = \frac{(1+z_L) D_{OL} D_{OS}}{c D_{LS}} [\Psi(\theta_A, \theta_S) - \Psi(\theta_B, \theta_S)]$$

宇宙論的な量に依存
レンズ天体のモデルに依存

$$\frac{(1+z_L) D_{OL} D_{OS}}{c D_{LS}} = \frac{1}{H_0} f(z_L, z_S, \Omega_0, \lambda_0)$$

$$H_0 = \frac{1}{(\Delta T_{AB})_{\text{obs}}} f(z_L, z_S, \Omega_0, \lambda_0) [\Psi(\theta_A, \theta_S) - \Psi(\theta_B, \theta_S)]$$

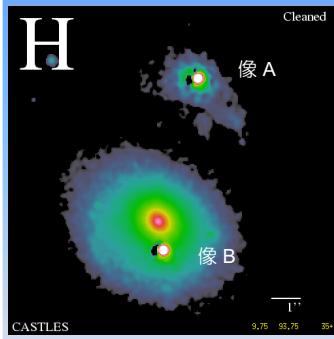
像A,Bの位置、明るさの比、形、time delay、レンズの赤方偏移、+ Ω_0, λ_0 \rightarrow Hubble定数
光源の赤方偏移

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

33

Q0957+561



レンズ天体の赤方偏移 0.36

像A,Bの分離角 6.5秒

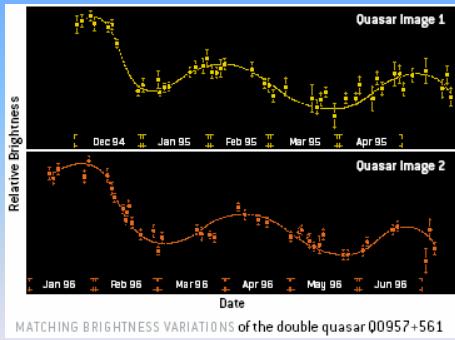
クエーサーの赤方偏移 1.41

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

34

Q0957+561の到着時間の遅れ



Q0957+561A,Bの明るさの変化
(光度曲線)

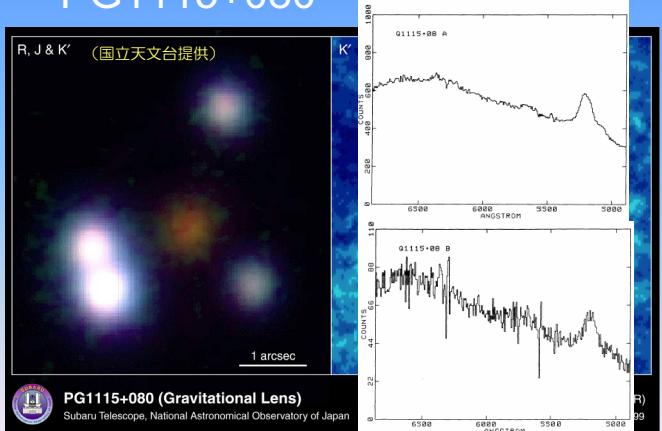
$$\Delta T_{AB} \approx 417 \text{ 日}$$

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

35

PG1115+080



2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

36

2237+0305



2237+0305の拡大図

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

37

B1608+656

レンズ天体の赤方偏移 0.63

クエーサーの赤方偏移 1.39

イメージ間の分離角 0.9秒～2.1秒

到着時刻の遅れ

BA : 31±7日

BC : 36±7日

BD : 76±10日

ハッブル定数

$$H_0 \sim 75 \text{ km s}^{-1} \text{ Mpc}^{-1} (\Omega_0 = 0.3, \lambda_0 = 0.7)$$

PG1115+080 (Gravitational Lens)
Subaru Telescope, National Astronomical Observatory of Japan

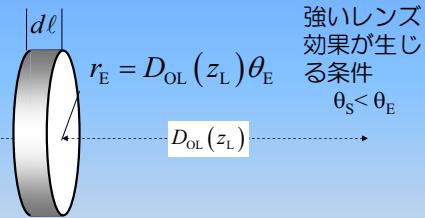
2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

38

3.2. 多重クエーサーの頻度

レンズ天体の宇宙空間での数密度 n_L



強いレンズ効果が起こる頻度

$$N = \int n_L \pi r_E^2 dE = \frac{3\Omega_L}{2} \left(\frac{H_0}{c} \right)^2 \int_0^\infty \frac{D_{LS}}{D_{OL} D_{OS}} dV$$

宇宙定数が大きいと、この項も大きくなる

宇宙定数: λ_0 に対する制限 $\lambda_0 < 0.62$ (Falco, Kochanek, Munoz 1998)

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

39

3.3. Microlensing

macho = massive compact halo object

星による重力レンズ効果

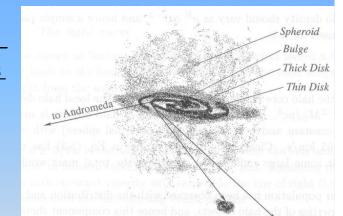
$$\theta_E \sim 0.001'' \sqrt{\frac{M}{M_\odot} \frac{8[\text{kpc}] D_{LS}}{D_{OL} D_{OS}}}$$

$$\Delta\theta \sim 0.002''$$

2つの像としては分離できない

$$A = A_+ + A_- = \frac{\theta_s^2 + 2\theta_E^2}{\theta_s \sqrt{\theta_s^2 + 4\theta_E^2}}$$

レンズ天体は光源に対して見かけ上運動している
ので、 θ_s は時々刻々変化する



光源の明るさも時間変化する

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

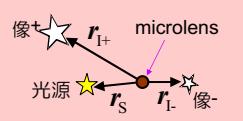
40

増光効果

光源を点光源としたとき

$$A_p = \frac{\theta_s^2 + 2\theta_e^2}{\theta_s \sqrt{\theta_s^2 + 4\theta_e^2}} = \frac{u_0^2 + 2}{u_0 \sqrt{u_0^2 + 4}},$$

$$u_0 \equiv \theta_s / \theta_e = \sqrt{\xi_0^2 + \left\{ V(t - t_0) / D_{OL} \theta_e \right\}^2}$$



光源に大きさがあるとしたとき

Witt & Mao, 1994

$$A = \frac{\iint \rho d\rho d\phi I(\rho, \phi) A_p(u(\rho, \phi))}{\iint \rho d\rho d\phi I(\rho, \phi)}, \text{ 明るさが時間変化する}$$

$$u(\rho, \phi) = \sqrt{u_0^2 + 2u_0\rho \cos\phi + \rho^2}$$

光度曲線

2003/10/15

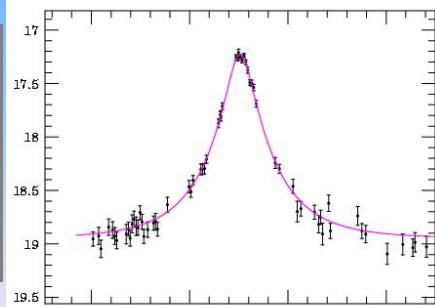
日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

41

Microlens の観測例（光度曲線）

OGLE microlensing event candidate:
BUL_SC10 294229

Field	BUL_SC10
Star No	294229
RA (J2000.0)	18:20:20.60
Dec (J2000.0)	-22:24:10.1
Remarks	
t_0 (HJD)	2450625.704 ± 0.166 (1997-06-26.20 UT)
τ_E (day)	33.09 ± 0.75
A_{max}	4.86 ± 0.07
I_0	18.950 ± 0.010



2003/10/15

http://sirius.astrowu.edu.pl/~ftp/ogle2/gb_lenses/gallery1.html

43

マイクロレンズの観測グループ

MACHO (MAssive Compact Halo Object)

EROS (Experience de Recherche d'Objets Sombres)

OGLE (Optical Gravitational Lens Experiment)

AGAPE (Andromeda Galaxy and Amplified Pixels Experiment)

MOA (MACHO Observations in Astrophysics)

PLANET (Probing Lensing Anomalies NETwork)

DUO (Disk Unseen Objects)

GMAN (Global Microlensing Alert Network)

MIPS (Microlensing Planet Search)

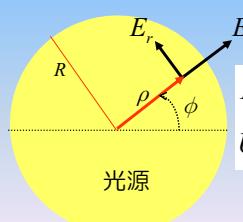
2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

45

4.1. Microlensによる偏光度の時間変化

$$E_r = a_r \sin \omega t, \quad E_l = a_l \sin(\omega t + \delta)$$



Stokesのパラメター

$$I_0 = \langle a_r^2 + a_l^2 \rangle, Q_0 = \langle a_l^2 - a_r^2 \rangle$$

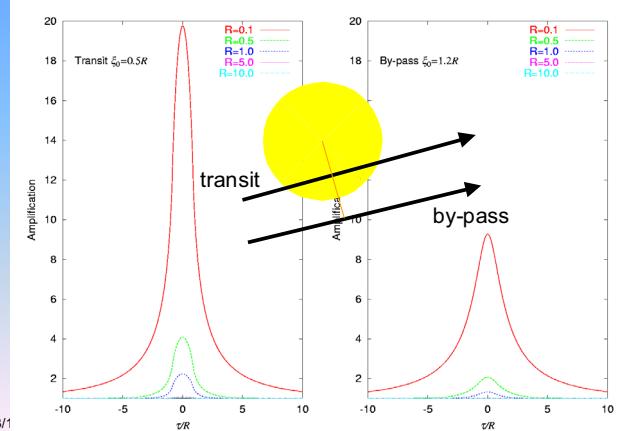
$$U_0 = \langle 2a_r a_l \cos \delta \rangle, V_0 = \langle 2a_r a_l \sin \delta \rangle$$

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

47

Microlens効果による光度曲線



42

Microlens効果から得たい情報

Microlensに関する情報

– Microlensの質量 M

– Microlensの位置 $\zeta = D_{OL}/D_{OS}$

– Microlensの速度 V

光源に関する情報

– 光源の大きさ R_* , $R = R_* \zeta / r_E$

– 光源のtype

– 光源の表面重力 g

観測できるもの:

光度曲線 $2t_E = 2r_E/V$ (event duration), $\zeta_0(R)$

Parallax効果 $r_E/(1-\zeta)$ (reduced Einstein ring raduis)

位置測光 $\theta_E = r_E/D_{OL}$ (angular Einstein ring raduis)

2003/10/15

44

4. 最近の研究から

- Microlens による偏光度の時間変化
- 多重重力レンズ効果

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

46

光源の偏光

Chandrasekhar効果

- 光源の大気による散乱で偏光が生じる

$$Q(\rho, \phi) = Q_0(\rho) \cos 2(\phi + \alpha)$$

$$U(\rho, \phi) = -Q_0(\rho) \sin 2(\phi + \alpha)$$

$$Q_0(\rho) = I_0(0) c_2 \left[1 - \sqrt{1 - (\rho/R)^2} \right]$$

S_{Q0}



S_{U0}



光源が球対称のとき $\rightarrow S_{Q0}=S_{U0}=0$ 偏光は見られない (-_-)

偏光が見られるのは、光源が二重星で蝕のときなどの対称性が壊れているとき!!

Algo!で観測されている (^_^)

20

48

マイクロレンズ効果による偏光

- Simmons, Newsam, Willis (1995) (SNW)
- Simmons, Willis, Newsam (1995)
- Agol (1996) [binary lens]

Microlens による増光効果で光源の対称性が
壊れる + Microlensは光源に対して v で動いている

Microlensの運動に伴って、対称性の壊れ方が時々刻々変化する

偏光度の時間変化が見られる

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

49

Microlens効果を受けていないとき

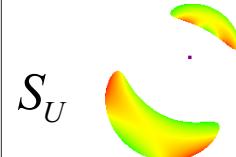


2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

50

Microlens効果を受けているとき(1/7)



2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

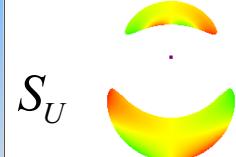
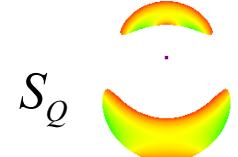
51

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

52

Microlens効果を受けているとき(2/7)



2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

53

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

54

Microlens効果を受けているとき(3/7)



2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

55

2003/10/15

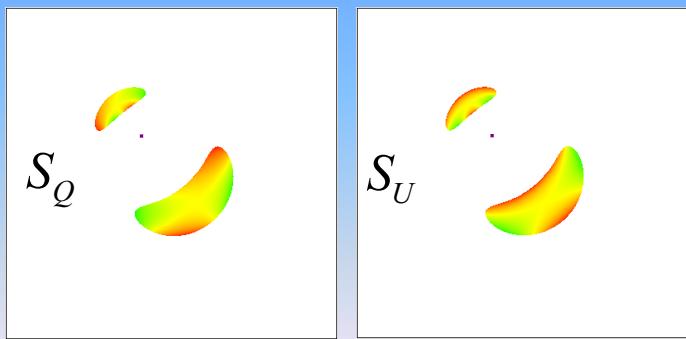
日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

56

Microlens効果を受けているとき(4/7)



Microlens効果を受けているとき(7/7)



2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

57

偏光度

$$p = \frac{\sqrt{S_Q^2 + S_U^2}}{S_I} = \frac{D(R, u_0)}{S_I(R, u_0)}$$

$$\begin{aligned} u_0^2 &= \xi_0^2 + \{V(t-t_0)/r_E\}^2 \\ &= \xi_0^2 + \tau^2 \end{aligned}$$

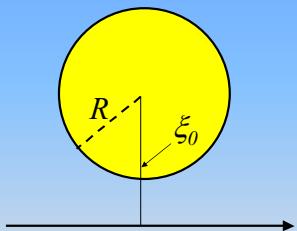
SNWでは偏光度 p を様々な R, u_0 に対して数値的に求めている。

2003/10/15

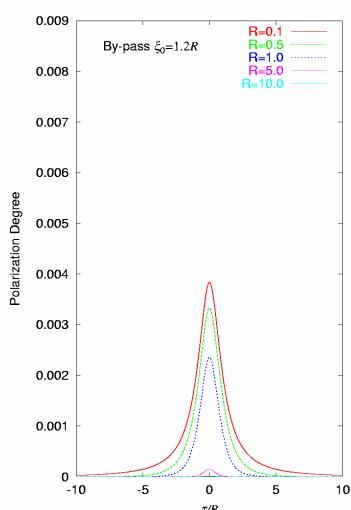
日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

59

By-passのとき ピークは1つ(SNW)



By-passの場合では R は
測れないのだろうか?



2003/10/15

日吉物理学教室談話会

The Stokes Parameters S_Q, S_U

$$\begin{pmatrix} S_Q \\ S_U \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cos 2(\theta_0 + \alpha) \\ -\sin 2(\theta_0 + \alpha) \end{pmatrix} D(R, u_0)$$

$$\begin{aligned} D(R, u_0) &= I_0 c_2 r_E^2 \int_0^R d\rho \left[1 - \sqrt{1 - (\rho/R)^2} \right] \left[\frac{(u_0 - \rho)^2 \Pi(k, n)}{u_0^2 \rho (u_0 + \rho) \sqrt{(u_0 - \rho)^2 + 4}} \right. \\ &\quad + \frac{u_0^6 + \rho^6 - u_0^2 \rho^2 (u_0^2 + \rho^2) + 6(u_0^4 + \rho^4) + 4u_0^2 \rho^2}{8u_0^2 \rho (u_0 + \rho) \sqrt{(u_0 - \rho)^2 + 4}} F(k) \\ &\quad \left. - \frac{(u_0 + \rho)(u_0^2 + \rho^2 + 2)\sqrt{(u_0 - \rho)^2 + 4}}{8u_0^2 \rho} E(k) \right] \quad (\text{by Yoshida}) \end{aligned}$$

偏光度の時間変化

マイクロレンズと
光源の位置関係

ξ_0 : MicrolensのImpact parameter

$$\begin{aligned} u_0^2 &= \xi_0^2 + \{V(t-t_0)/r_E\}^2 \\ &= \xi_0^2 + \tau^2 \\ \begin{pmatrix} S_I \\ S_Q \\ S_U \end{pmatrix} &= \iint \rho d\rho d\phi \boxed{A_p(\rho, \phi)} \begin{pmatrix} I_0(\rho) \\ Q_0(\rho) \cos 2(\phi + \alpha + \theta_0) \\ -Q_0(\rho) \sin 2(\phi + \alpha + \theta_0) \end{pmatrix} \\ \boxed{A_p(\rho, \phi)} &= \frac{u_0^2 + 2\rho u_0 \cos \phi + \rho^2 + 2}{\sqrt{u_0^2 + 2\rho u_0 \cos \phi + \rho^2} \sqrt{u_0^2 + 2\rho u_0 \cos \phi + \rho^2 + 4}} \end{aligned}$$

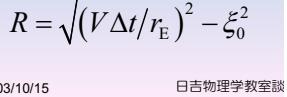
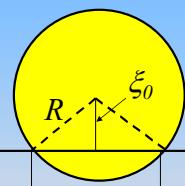
2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

58

Transitのとき

偏光度には2つの
ピークがある(SNW)



2003/10/15

日吉物理学教室談

Semi-Analytical Formulae

Total Intensity; Witt, H.J., 1995
(光度曲線)

$$S_I = 4I_0 r_E^2 \int_0^R d\rho \rho \left[1 - c_1 \left\{ 1 - \sqrt{1 - (\rho/R)^2} \right\} \right] \times \left[\frac{(u_0 - \rho)^2 \Pi(k, n) + 2F(k)}{(u_0 + \rho) \sqrt{(u_0 - \rho)^2 + 4}} \right]$$

$F(k)$: 第1種橅円積分

$\Pi(k, n)$: 第3種橅円積分

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

62

By-passのときの偏光度と光源の サイズの関係

S_I, D を $R < u_0, R < 1$ として展開すると…

$$\begin{aligned} S_I &= A_p S_{I0} \left[1 + \frac{60 - 28c_1}{15 - 5c_1} \frac{u_0^2 + 1}{(u_0^2 + 2)(u_0^2 + 4)} \left(\frac{R}{u_0} \right)^2 + \dots \right], \\ D &= \frac{21c_2}{15 - 5c_1} \frac{A_p S_{I0}}{(u_0^2 + 4)^2} \left(\frac{R}{u_0} \right)^2 \left[1 + \frac{304(u_0^6 + 3u_0^4 + 6u_0^2 + 5)}{147(u_0^2 + 2)(u_0^2 + 4)^2} \left(\frac{R}{u_0} \right)^2 + \dots \right] \end{aligned}$$



$$p \approx \frac{21c_2}{15 - 5c_1} \frac{(R/u_0)^2}{(u_0^2 + 4)^2}$$

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

64

偏光度の最大値

偏光度が最大となるのは $u_0 = \xi_0$ のとき

$$P_{\max} \simeq \frac{21c_2}{15 - 5c_1} \frac{(R/\xi_0)^2}{(\xi_0^2 + 4)^2} \simeq 0.0011 \left[\frac{R/(0.5\xi_0)}{(0.5\xi_0)^2 + 1} \right]^2$$

ただし、 $c_1 = 0.64$, $c_2 = 0.04$

→ $\xi_0 = \xi_0(p_{\max}, R)$ または $R = R(p_{\max}, \xi_0)$

さらに、光度曲線(S_I)の測定から ξ_0 が得られれば R がわかる

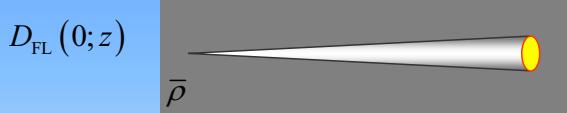
2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

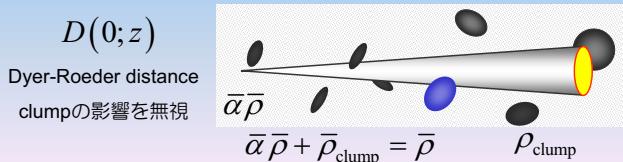
65

角度距離

一様等方宇宙(Friedmann-Lemaître model)



非一様宇宙 (clumpy model)



2003/10/15

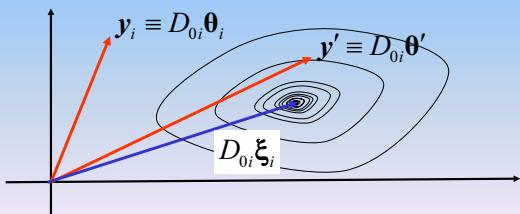
日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

67

i 番目のレンズによる曲がり角

$$\alpha_i(y_i) = \frac{4G}{c^2} \iint_{S_i} d^2y' \sigma_i(y') \frac{y_i - y'}{|y_i - y'|^2}$$

↑
表面質量分布



2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

69

Jacobian Matrixの平均をとる

いろいろな方向に見える光源について平均をとる

$$\langle \mathbf{A}_{S,N} \rangle = \mathbf{I} + \sum_{i=1}^N (-)^i \sum_{k_1=1}^N \sum_{k_2=1}^{k_1} \sum_{k_3=1}^{k_2} \cdots \sum_{k_i=1}^{k_{i-1}} \langle \mathbf{U}_{k_1} \mathbf{U}_{k_2} \mathbf{U}_{k_3} \cdots \mathbf{U}_{k_i} \rangle$$



各レンズ面上でのレンズの位置について平均をとる

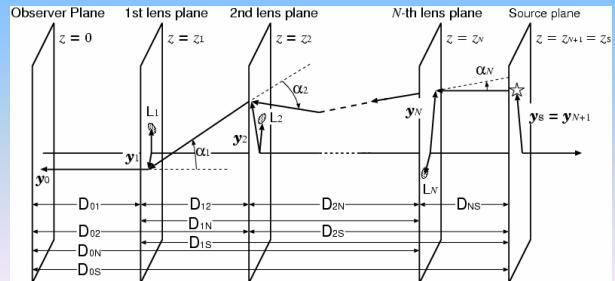
2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

71

4.2. 多重重力レンズ効果

- 天体までの距離(角度距離)
- 多重重力レンズ方程式
- Jacobian Matrix (増光行列)



2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

66

多重重力レンズ方程式

$$\begin{aligned} \text{Observer Plane} & \quad \text{1st lens plane} \quad \text{2nd lens plane} \quad \text{...} \quad \text{N-th lens plane} \quad \text{Source plane} \\ z=0 & \quad z=z_1 \quad z=z_2 \quad \quad \quad \quad z=z_N \quad z=z_{N+1}=z_s \\ \mathbf{y}_0 & \quad \mathbf{y}_1 \quad \mathbf{y}_2 \quad \quad \quad \quad \mathbf{y}_N \quad \mathbf{y}_s = \mathbf{y}_{N+1} \\ D_{01} & \quad D_{12} \quad \quad \quad \quad D_{2N} \quad \quad D_{NS} \\ D_{02} & \quad D_{1N} \quad \quad \quad \quad D_{2S} \quad \quad D_{NS} \\ D_{0N} & \quad D_{1S} \quad \quad \quad \quad D_{2S} \quad \quad D_{NS} \\ D_{0S} & \end{aligned}$$

$D_{ij} \equiv D(z_i; z_j)$

Dyer-Roeder distance

$$\mathbf{y}_s = \frac{D_{0S}}{D_{01}} \mathbf{y}_1 - D_{1S} \boldsymbol{\alpha}_1(\mathbf{y}_1) - D_{2S} \boldsymbol{\alpha}_2(\mathbf{y}_2) - \cdots - D_{NS} \boldsymbol{\alpha}_N(\mathbf{y}_N)$$

$$= \frac{D_{0S}}{D_{01}} \mathbf{y}_1 - \sum_{k=1}^N D_{kS} \boldsymbol{\alpha}_k(\mathbf{y}_k) \quad \left[\mathbf{y}_i = \frac{D_{0i}}{D_{01}} \mathbf{y}_1 - \sum_{k=1}^i D_{ki} \boldsymbol{\alpha}_k(\mathbf{y}_k) \right]$$

$$\mathbf{y}_i \equiv D_{0i} \boldsymbol{\theta}_i$$

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

68

Jacobian Matrix: $\mathbf{A}_S \boldsymbol{\theta}_1 \mapsto \boldsymbol{\theta}_s$

$$\begin{aligned} \mathbf{M}_{S,N}^{-1} \equiv \mathbf{A}_{S,N} &= \frac{\partial \boldsymbol{\theta}_s}{\partial \boldsymbol{\theta}_1} = \mathbf{I} - \sum_{k=1}^N \mathbf{U}_k(\boldsymbol{\theta}_k) \mathbf{A}_k \\ \mathbf{A}_i &= \frac{\partial \boldsymbol{\theta}_i}{\partial \boldsymbol{\theta}_1} = \mathbf{I} - \sum_{k=1}^i \mathbf{U}_k \mathbf{A}_k \quad \mathbf{U}_k = \mathbf{U}_k(\boldsymbol{\theta}_k) = \frac{D_{ki}}{D_{0i}} \frac{\partial \boldsymbol{\alpha}_k}{\partial \boldsymbol{\theta}_k} \\ \mathbf{A}_{S,N} &= \frac{\partial \boldsymbol{\theta}_s}{\partial \boldsymbol{\theta}_1} = \mathbf{I} - \sum_{k_1=1}^N \mathbf{U}_{k_1} \left(\mathbf{I} - \sum_{k_2=1}^{k_1} \mathbf{U}_{k_2} \left(\mathbf{I} - \sum_{k_3=1}^{k_2} \mathbf{U}_{k_3} \left(\cdots \right) \right) \right) \\ &= \mathbf{I} + \sum_{i=1}^N (-)^i \sum_{k_1=1}^N \sum_{k_2=1}^{k_1} \sum_{k_3=1}^{k_2} \cdots \sum_{k_i=1}^{k_{i-1}} \mathbf{U}_{k_1} \mathbf{U}_{k_2} \mathbf{U}_{k_3} \cdots \mathbf{U}_{k_i} \end{aligned}$$

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

70

平均のJacobian Matrix

$$\begin{aligned} \langle \mathbf{U}_{k_1} \mathbf{U}_{k_2} \mathbf{U}_{k_3} \cdots \mathbf{U}_{k_i} \rangle &= a_{k_1} a_{k_2} a_{k_3} \cdots a_{k_i} \mathbf{I} \\ \langle \mathbf{A}_{S,N} \rangle &= \left[1 + \sum_{i=1}^N (-)^i \sum_{k_1=1}^N \sum_{k_2=1}^{k_1} \sum_{k_3=1}^{k_2} \cdots \sum_{k_i=1}^{k_{i-1}} a_{k_1} a_{k_2} a_{k_3} \cdots a_{k_i} \right] \mathbf{I} \\ &= B_N(z_s) \mathbf{I} \end{aligned}$$

多重重力レンズ効果の写像は
平均的には等方的な写像となる

2003/10/15

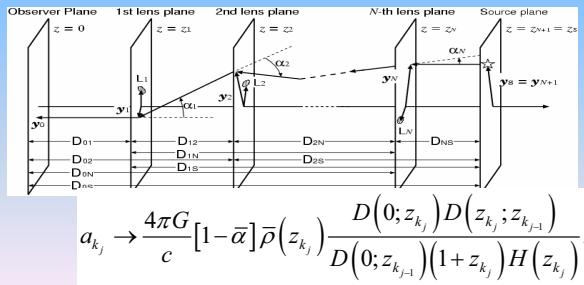
日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

72

$\langle \mathbf{A}_{S,N} \rangle$ の連続極限

レンズの数 $N \rightarrow \infty$ の極限

$$\text{レンズの質量 } \langle M \rangle \simeq \frac{1}{N} \int \rho dV \sim \rho \frac{dV}{dz} \Delta z, \quad \left(\Delta z \sim \frac{z_s}{N} \rightarrow 0 \right)$$



2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

73

連続極限での平均の増光行列

$$\mathbf{A}_S = \lim \langle \mathbf{A}_{S,N} \rangle = B(z_S) \mathbf{I}$$

$$\tilde{D}(0; z_S) \equiv B(z_S) D(0; z_S)$$

Friedmann-Lemaître での角度距離と一致

$$D_{\text{FL}}(0; z_S) = B(z_S) D(0; z_S)$$

2003/10/15

日吉物理学教室談話会 「重力レンズ効果」

74